

# いしのまき 普及センター通信

## 特集

## 復興が進む石巻市大川・北上地区

株式会社デ・リーフデ大川の高軒高ガラス温室を上空から臨む

### ～震災からの復興 そしてその先へ～

東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市北上地区では、株式会社デ・リーフデ北上が、オランダの高度な栽培技術を取り入れ、高軒高ガラス温室を導入し、平成28年度からパプリカ、トマトの生産が行われています。パプリカは県内トップクラスの生産力を有し、平成30年から全国の産地で唯一、国際宇宙ステーションに届けられています。

関連会社の株式会社デ・リーフデ大川は、石巻市大川地区において、新たな高軒高ガラス温室を導入し、令和3年6月から高度環境制御システムによるパプリカ(0.9ha)及びトマト(1.3ha)の栽培を開始します。

地域の農業を牽引する存在として、これからますますの発展が期待されています。



## 特集1 復興が進む石巻市大川・北上地区

### 被災農地における土づくりの推進による生産性の向上

●石巻市大川長面地域では、東日本大震災からの農地の復旧が進められ、令和3年度は復旧した全ての農地に水稻が作付けされます。復旧したばかりの農地では、水稻の収量が低いため、堆肥等の散布により地力を向上させ、収量を増やす取組が必要です。

●普及センターで取り組んでいる本プロジェクトでは、この地域の中心的担い手である3法人「株式会社宮城リスタ大川」、「農事組合法人みのり」、「株式会社ゆいっこ」を対象に、以下の支援を行っています。

- ① 堆肥の散布量を変えた土づくり実証ほを設置して効果を確認します。
- ② 地域内の堆肥の供給可能量を調査し、散布計画面積と数量を調整します。
- ③ 水稻大規模経営の中で春作業の省力化、作業分散が可能な乾田直播栽培技術の向上を図ります。

【問】先進技術第一班 ☎0225(95)7612



対象法人が初めて取り組んだ堆肥散布作業

### 株式会社ゆいっこ 震災復興後10年目を迎えて



(写真：奥山代表取締役、佐藤取締役、今野取締役)

●平成21年3月農事組合法人「ゆいっこ」を設立、平成23年の東日本大震災後は津波被災農地での作付再開に取り組んできました。構成は、役員3人、農繁期の季節雇用5～6人です。復興交付金により農業機械を借り受け、令和3年は、北上と長面地区で水稻75.5ha（乾田直播栽培19.5ha）と大豆16.6haの作付け、水稻育苗ハウスを利用した葉物野菜の生産を行っています。

●令和3年2月に株式会社となり、北上と長面地区の地域農業の担い手として、農業土木の技術を活かし、地域内の農地や農業用道路・水路等の維持管理にも取組み地域への貢献にかかわりたいと考えています。

【問】先進技術第一班

☎0225(95)7612

## 特集2 復興が進む石巻市大川・北上地区

### 石巻市大川地区における鳥獣被害対策

●石巻地域ではニホンジカの分布の拡大に伴い、農林業被害や交通事故が発生しています。

●石巻市大川地区では、ニホンジカによる水稻や大豆の食害が問題となっていました。そこで、侵入防止柵の設置や緩衝帯の整備など、地域ぐるみの対策を実施してきました。また、一昨年度は電気柵の張り方講習会、昨年度はくくりわなによる捕獲の現地講習会を実施しました。これらの対策により地域の農作物被害は大幅に減少しました。正しい知識をもって、地域や集落単位で対策に取り組むことで、効果的で継続的な対策が可能になります。

【問】農業振興班 ☎0225(95)7809



数年かけて5km以上の侵入防止柵を設置

## 令和3年度プロジェクト課題の紹介

### 被災沿岸部の大規模経営体の組織力強化を目指して

●東松島市の被災した沿岸部で大規模な経営を行う株式会社めぐいとの組織力強化を目指して、普及センターでは、令和2年度から社内制度整備、園芸部門・水田部門の栽培管理技術の向上を支援してきました。令和3年度は、社員が長く勤められる魅力ある経営体を目指し、人事評価・昇給制度の運用、中長期計画の策定、各部門における若手社員の栽培管理技術の向上に向けた支援等を行います。

【問】地域農業班 ☎0225(95)7612



園芸部門の栽培状況の確認

### 新品種「にこにこベリー」の収量増加を目指して



形が良いのも特徴の一つでパック詰めしやすい品種です。

●石巻管内では、令和元年度より宮城県育成いちご新品種「にこにこベリー」の栽培がスタートしました。クリスマスに向けた年内出荷が可能であり、果肉が赤いといった特性からスイーツ店などに需要が高い品種です。

●普及センターでは、定期的に生育調査を行い、生育データに加え、温湿度データ等を加えたウィークリーレポートを作成提供し、収量、品質向上につながるよう支援しています。今年度も引き続き、品種特性に応じた栽培管理技術の普及を図り、新品種の定着支援を行います。

【問】先進技術第二班 ☎0225(95)1435